

### [III]

以下の「外国人ヘルパー 心の介護」および「ネーティブの役割」を読んで、これからの日本社会において、どのような人物像が求められていると思うか、下記の間(E)、(F)から一つ選択し自分の考えを論述しなさい。なお、この文章は「日本人の役割」について言及しているが、自分が日本社会で生活する際、どのような役割を果たしていきたいかを具体例を挙げて述べなさい。

(E) 自分の考えを、日本語 800 字以内(句読点を含む)および英語 500 語以内(句読点を含まない)で記述しなさい。なお、日本語と英語は、同じ内容を記述すること。日本語の解答には解答用紙⑨を、英語の解答には解答用紙⑩を使いなさい。

(F) 自分の考えを、日本語 800 字以内(句読点を含む)および中国語 800 字以内(句読点を含む)で記述しなさい。なお、日本語と中国語(簡体字でも繁体字でも可)は、同じ内容を記述すること。日本語の解答には解答用紙⑪を、中国語の解答には解答用紙⑫を使いなさい。

#### 外国人ヘルパー 心の介護

日本の病院や介護施設で、将来看護師や介護福祉士として働くことをめざして、来日する外国人が増えています。

来日後は、病院や施設で働きながら研修を受け、その合間を縫って、日本人でも合格が難しい国家試験の勉強をします。異国の地で働き、生活をしながら、専門技術を覚えるのは簡単なことではありません。

なかでも、日本語の壁は厚く立ちはだかります。特に、お年寄りのお世話をする介護福祉士の仕事には、日本語によるコミュニケーションが欠かせません。コミュニケーションのためには、地域の方言や、お年寄りが生きてきた時代についても知識を身につける必要があります。そのほか、同僚との業務上のやりとりや、専門用語を駆使した日誌の読み書きもできなければなりません。

ことばは、人を育てるだけでなく、人をお世話する大切な役割を果たします。「心で介護する」といわれるゆえんです。毎日、尊敬の念をもって、お年寄りと接する中で、心を込めてお世話するという気持ちが生まれてこないと、仕事をこなしたことにはなりません。

これから介護してもらかもしれない日本人は、こうした厳しい条件のもとで、ことばを学び、明日の日本の福祉を支えてくれる外国人の働き手に対し、どのような支援ができるのでしょうか。ことばを通して、日本人とふれあおうとしている人達から目が離せません。

#### ネーティブの役割

ことばを効果的に学ぶには、学ぶ側の努力だけではなく、母語話者の協力も欠かせません。外国人力士が、相撲部屋やご近所の皆さんとのネットワークを利用して、日本語を磨いているのは、そのわかりやすい例です。

では母語話者(ここでは日本人)は、外国人の学習のお手伝いだけすればいいのでしょうか。それはちょっと虫が良すぎますよね。なぜなら、外国人にも日本人にも住みやすい社会をめざしているのに、外国人にだけ努力を強いることになるからです。

外国人が増えることによって、当然、地域の常識やルールも変わってきます。日本人もそれらを学ばないことには、お互いにとって居心地のいい社会にはなりません。異文化適応は、外国人だけの問題だと思っている人が多いようですが、お互いの理解のために、双方が何かを学びあっていくことが重要です。外国人と生活したり、交流したりすることで、自らも成長していくのだという意識が広がるといいのですが、そうした指摘は、これまであまりなされてきませんでした。

では、具体的に、どのような目標をもつべきなのでしょう。たとえば、「自分の文化や習慣を一方的に押し付けない」とか、「自分たちのことばを学んでもらうと同時に、外国人が話す日本語にも慣れる」ことなども大切ではないでしょうか。

これからの日本社会では、ともに学びあって成長していく姿勢こそが問われていると思います。

(宮崎里司(2010)『ことば漬けのススめ』明治書院 一部編集)